

「地域発 元気づくり支援金」平成25年度実施事業に係るフォローアップ調査集計

回答団体数 【地区別】	佐久	上小	諏訪	上伊那	下伊那	木曾	松本	北安曇	長野	北信	合計
	14	10	8	11	16	10	18	8	17	9	121

○支援金活用事業の効果についておうかがいします

【問1】支援金活用事業の実施によって地域活性化への効果は現在も続いていますか。

次の番号から一つお選びください。

①現在も効果が継続している。

②支援金活用事業を実施した時は効果が見られたが、現在は見られない。

①	111
②	10

「①」を選んだ方は【問2-1】及び【問2-2】へ、「②」を選んだ方は【問3】へお進みください。

【問1】で「①」を選択された方におうかがいします。（【問2-1】から【問2-2】まで）

【問2-1】理由を次の番号から一つお選びください。

①支援金を活用した事業を引き続き実施している。

②支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。

③市町村又は他団体が類似の事業を実施している。

④その他

①	85
②	16
③	3
④	7

【問2-2】どのような効果がありますか。

また、その効果を持続させるために工夫されている点がありましたらお書きください。

◆どのような効果がありますか

○水力発電を用いたイルミネーションを有害鳥獣対策の電気柵に応用する人が現れるといった形で、自然環境を利用したエネルギーへの関心や地元での産業創出の意識が高まっている。

○地域のそば、大豆栽培により遊休農地の解消に貢献している。

○若者や障がい者などこれまで農業と接することのなかった人々が、農業体験教室や福祉農園といった農作業を体験する活動を通して、農業と自分との関わりを深めることができた。

○地域の伝統文化を多くの人に知ってもらうことで、地域への愛着や伝統芸能への理解が高まっている。

○大学と協力・連携協定を結んでいる広域連合が実施主体となることで、大学の学部生による調査研究を踏まえたモデル事業を展開できた。調査研究における着眼（ターゲットを若年層に設定等）が他団体における販売促進に役立っている。

○支援金事業で拡張した生産者コーナーへの登録農家及び一農家当たりの収入が増加した。また、国道から生産者コーナーの看板が認識しやすくなり、観光客の集客にも効果があった。

○地域づくりを担う町会長や町会役員の「誰もが参加できる開かれた町会運営」への意識が高まり、魅力ある町会運営につながった。

○地元の荒廃農地を活用した農産物生産を実施したことにより、荒廃農地の面積縮小につながった。また、地元農産物の認知度向上と雇用の拡大にもつながっている。

◆工夫されている点

- 単独で事業運営するより、様々な機関との連携の上に立った事業推進こそ効果的であることが、事業を継続する中で明確になってきた。
- 消費者のニーズがどこにあるのかをイベントごとのアンケートによって常に把握している。
- 運営にかかる費用を抑え、出店者が自分でできることを実践し、イベントを継続している。
- 品質の維持、向上を基本にブランド力を落とさない。
- イベントなどで一般の方への参加型のイベントを増やす。目にする、耳にする機会を増やし、興味を持てるようにする。
- 年度によって、住民向け、事業者向け等ターゲットを変えて、普及啓発を実施している。
- 毎年研修会を実施することで、地域づくりを担う人材育成の機会を損なうことのないようにしている。

【問4】へお進みください。

【問3】理由を次の番号から一つお選びください。

- ① 支援金を活用した事業と同じ事業は行っていないため。
- ② 事業規模が小さかったため。
- ③ 事業実施方法に問題があったため。
- ④ その他

①	6
②	0
③	1
④	3

○団体の活動状況についておうかがいします

【問4】 支援金活用事業を実施してからこれまでの間、団体の活動を継続していますか。

- ① 継続している。(一旦休止した後、再開した場合を含む。)
- ② 休止・終了した。

①	117
②	4

①を選んだ方は【問5-1】～【問5-5】へ、「②」を選んだ方は【問6-1】及び【問6-2】へお進みください。

【問4】で「①」を選択された方におうかがいします。(【問5-1】から【問5-5】まで)

【問5-1】 団体設立からこれまでの活動年数を記入してください。

5年以下	40
10年以下	24
20年以下	17
20年超	28
不明・回答なし	8

【問5-2】 設立時及び現在の構成員数を記入してください。

構成員が増加	49
構成員が減少	31
構成員に増減なし	18
不明・回答なし	19

【問5-3】 現在の主な事業実施状況を次の番号から一つお選びください

- ① 支援金を活用した事業と同様の事業を実施している。
- ② 支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。
- ③ 支援金活用事業とは全く関係のない別の事業を実施している。

①	83
②	32
③	2

【問5-4】 今後、引き続き活動していく上で最も必要だと思われることは何ですか。

次の番号から一つお選びください。

- ① 資金の確保
- ② 人材の確保
- ③ 先進事例等の情報収集
- ④ 他の団体との連携・交流
- ⑤ その他

①	50
②	43
③	3
④	12
⑤	9

**【問5-5】最近の事業の実施状況や団体の活動状況など自己PRをご自由に記入してください。
(活動状況の様子ที่わかる資料や新聞記事などがありましたら、添付してください。)**

- 「信州MICE」で盛り上げることを目標に、現在、松本市・長野市・軽井沢町の2市1町で会議PR用の展示会に合同で出展している。(佐久地域 軽井沢リゾート会議都市推進協議会)
- 耕作放棄地を利用して栽培したニンニクを使って作った「美味だれ」を販売。今年度は「信州上田産ブランディング協議会」の支援を受け、地元産ニンニクとしてのブランド化、生産拡大を目指している。(上小地域 NPO法人侍学園スクオーラ・今人)
- 諏訪市上野地区で栽培される上野大根は平成19年から信州の伝統野菜に認定されており、現在でも地域づくりに活用している。(諏訪地域 諏訪市農業技術者連絡協議会)
- 行政自らが旗を振らず住民主体で地域振興への温度を上げていく手助けが行えている。観光においては特にDMOの必要性も叫ばれる中、業種や自治体を越えた多様な関係者の連携について、始めの加速感をうまく煽れるように取り組んでいる。(上伊那地域 上伊那観光連盟)
- 平成27年度に第4次基本構想基本計画を策定し、リニア中央新幹線開通を見据えた地域づくりのため事業を展開している。(下伊那地域 南信州広域連合)
- 「健康づくり」をテーマにした事業を展開し、講演会や軽運動、落語会、料理講習、サロン等幅広く地域の皆さんと一緒に地域福祉・健康事業の充実のための活動を行っている。(木曾地域 特定非営利活動法人 のぞみの里)
- 単位町会や地区では対応できない広域的な課題に対する意見調整を行うとともに、行政との情報交換や単位町会の運営支援などに取り組んでいる。一年間の主な事業として、市政への提言や懇談会、市との協働による地域づくり、地域への貢献活動、各種団体との連携・支援、会報の発行、町会長初任者等研修会などを行っている。(松本地域 松本市町会連合会)
- 当町は素晴らしい北アルプスの展望を誇り、豊かな自然環境に恵まれた町で、首都圏を中心に当町の素晴らしさを紹介して観光誘客に努めている。最近では宿泊を伴い関西圏からの流入も増加していることから、関西圏・中京圏への観光PRも積極的に実施している。(北安曇地域 池田町観光協会)
- 善光寺御開帳やプレDCキャンペーンなどの期間中、長野駅前で開催した「ウェルカムガーデンながの」(善光寺口利活用ネットワーク主催)にボランティア協力するなど、他団体とも交流し、市民および市民団体による都市緑化を進めている。(長野地域 長野市緑と花いっぱい会)
- 更なる集落の活性化に向けた事業展開をするため、集落全戸が社員の「合同会社小滝プラス」を設立した。小滝米のブランド化に向けて東京の企業とタッグを組み商品開発及び販売に積極的な活動をしている。(北信地域 小滝復興プロジェクトチーム)

【問4】で「②」を選択された方におうかがいします。(【問6-1】から【問6-2】まで)

【問6-1】支援金活用事業を実施した後、休止又は終了までの年数を記入してください。

1年	1
2年	2
3年	1
5年	0
不明・回答なし	0

【問6-2】活動を休止又は終了した理由を次の番号から一つお選びください。

- ①所期の目的を達成
- ②資金不足
- ③人材不足
- ④その他(具体的に下欄にお書きください。)

①	3
②	0
③	0
④	1

○代表者死亡のため、団体の継続が出来ず終了した。